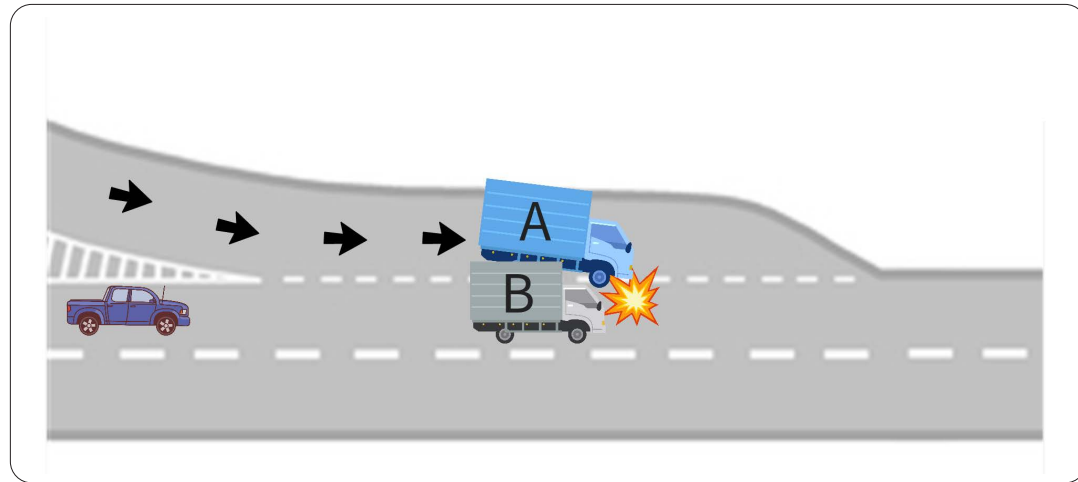


職場における交通安全指導

Part 134

高速道路での合流の際、右後方から来たトラックと衝突



■事故の概要

- 事故の当事者
当事者A（中型トラック）：20歳代、男性
当事者B（中型トラック）：40歳代、男性
- 被害状況
A：運転席ドア部、右前タイヤハウス凹損
B：フロント、左ドア部凹損
- 道路状況
片側二車線の高速道路

事故状況

Aは、中型トラック乗務歴3年のドライバーである。
事故当日は早朝から乗務を開始し、県外への雑貨搬送業務を担っていた。
Aは、これまで県内での搬送を中心に行っており、県外への配送は今回が初めてであった。
配送先への到着予定時間に遅れないように余裕をもって出発し、高速道路へ進入した。
渋滞もなくスムーズであったため、予定時

間より早く到着しそうなので、途中のパーキングエリアで仮眠をとった。
ところが、寝坊をしてしまい、予定した出発時間を1時間も過ぎていた。
Aは到着時間に遅れてしまうため、急いでトラックを発進させた。
遅れを挽回しようと焦り、パーキングエリアから本線車道に急いで合流する際に、加速しながら右ウインカーを出して、ミラーで右後方の確認を行ったところ、後方に普通車が1台進行してきていることを確認したが、ほかに車両はいないものと判断し、進路変更直前に目視確認をしないまま本線に進路変更を行ったところ、右ミラーの死角にいたBと衝突した。

事故の原因

事故の原因は、遅れを挽回しようとした焦る気持ちから、進路変更時の確認を急いでミラーのみで行い、直前の目視確認を怠り、死角にいたBを見落としたことでした。

安全指導

高速道路上で事故が発生すると、他の車両を巻き込んで重大なものに発展する危険があります。
進路変更時の事故を防ぐためには、以下の点を意識しましょう。

①自車の死角を理解する

進路変更時は、側方や斜め後方の状況を確認し、把握することが重要となります。
Aは、急いで車線変更することに気を奪われ、ミラーのみの確認で済ませてしまいました。
死角範囲の大きいトラックを運転するにあたり、ミラーに映らない死角範囲を考えず、右側に何も無いものと早期に判断し、安全確認を怠ってしまったことは危険意識の欠如といえます。

常にミラーでは見えない範囲を理解し、見えない範囲は直接自分の目で確かめることを徹底しましょう。

②焦りや、急ぎの心理に注意する

安全運転のためには、まず無理のない運行計画や、積み込みの所要時間、運行ルートや休憩場所の確認など、事前準備を怠らないようにし、時間と気持ちに余裕を持つことが何より大切です。
Aの場合、寝坊をしたことで出発時間が大幅に遅れてしまったことが、焦りの気持ちを生じさせ、事故原因の一つとなったと考えられます。
ドライバーにとって安全確認や、運転技術等も重要ですが、まず、心身を安定した状態にし、平常心を保つことも重要です。

③変更する先の車線の流れを乱さない

進路変更は、変更先の後続車の進路を妨害する結果を招きやすくなります。
後続車が慌てて急ブレーキを踏んだり、急にハンドルを切らなければならない状況を作らないためにも、ミラーで確認することに加

え、自分の目で変更しようとする車線の後方の状況を十分に確かめてから行動することが大切です。

④ミラーの特性を理解する

事故を起こしたドライバーの多くは、「ミラーは見ていた」と答えます。
しかし、「ミラーのどの位置に、どの位の大きさで見たのか？」と質問をすると、答えられないドライバーがほとんどです。
ミラーには、例え車両が映っていても、それだけでは距離などの判断がつきにくく、左ミラーと右ミラーでも距離感の違いがあります。
また、車体が斜めになっていれば、当然斜め後方しか見ることができず、本線車道上の車両の状況を正しく把握することはできません。
ドライバーはミラーの特性を理解する必要があります。

⑤コメンタリー運転の推奨

見落としを防ぐ観点から、目から得た情報を声に出しコメントしながら運転するコメンタリー運転を推奨します。「右側方よし」など声に出すことで認知ミスを防ぐためには有効な手段と考えられています。
また、危険だと思うものを声に出していくことで、積極的に危険を探すようになり、最も安全な運転方法を考える習慣が身につくようになります。
事故防止のために、率先してコメンタリー運転を実践しましょう。

自動車を運転する際は、見えている範囲だけでなく、死角部分にも注意を払う必要があります。
何も無いではなく、何かがあるという前提を持ち、より一層の注意を払い運転するようにしましょう。